

# 加齢性難聴の手足の冷えに 人參養榮湯が有効だった2症例

新潟県厚生農業協同組合連合会 長岡中央総合病院 耳鼻咽喉科 部長(新潟県) 田中 久夫

急速に聴力が低下した加齢性難聴患者の手足の冷えに対し、人參養榮湯が有効だった2症例について報告する。症例1は2週後、症例2は4週後より、冷えの自覚のほか、4分法における平均聴力レベルの改善も認められた。人參養榮湯には末梢循環改善作用があり、これにより、冷えだけでなく、聴力に対しても作用したことが考えられる。

**Keywords** 加齢性難聴、手足の冷え、人參養榮湯

## はじめに

冷えは循環障害などが関係していると考えられ、女性や高齢者によく認められる症状である。しかしながら、西洋医学では疾患とは捉えられておらず、治療は主に漢方薬が使用される。一方、加齢性難聴も原因の一つとして血流障害による有毛細胞や神経細胞の障害が考えられているが、根本的な治療方法はない。筆者は日常診療において、従来治療だけでは効果が不十分な耳鼻科疾患のうち、背景に冷えなどの循環障害が認められる場合に人參養榮湯を併用することで、冷え以外の症状に改善がみられる症例を多数経験している。

今回、加齢性難聴患者の手足の冷えに対して人參養榮湯を投与したところ、冷えの自覚のほかに、4分法における平均聴力レベル(以下、聴力)が改善した2症例を報告する。

## 症例1 72歳、女性

以前から、難聴があったが放置していた。8ヶ月前に、腰椎の圧迫骨折を起して痛みが強くなり臥床する時間が長くなり、筋力もかなり低下してきた。1ヶ月経過したころから、聴力が著明に低下して会話も難しくなってきたことから、補聴器の相談にて当外来を受診した。車椅子でやってきたが、ものにつかまってやっと動ける程度の状態だった。聴力は右側65dB、左側67dBで、手足の冷えがあり、補聴器相談と人參養榮湯エキス細粒 7.5g/日の投与を行った。

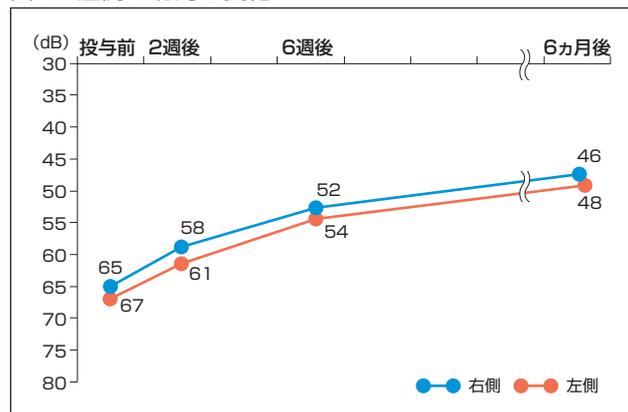
2週後、初診時より聞こえが良くなり、聴力は右側58dB、左側61dBと改善した。会話は補聴器を使用せずとも、1対1でゆっくり話すことで可能となり、歩行もゆっくりと平らなところで短時間であればできるようになった。

手足も以前より温かくなり、便通も改善して元気になった。6週後に再診したところ歩行もかなりできるようになり、聴力も右側52dB、左側54dBとなり、会話もさらに可能となってきた。本人の希望もあり、人參養榮湯の投与を継続し、6ヶ月が経過した再診時には歩行もかなりスムーズにできるようになり、聴力は右側46dB、左側48dBと改善し(図1)、骨折前と自覚的には大差ないほど改善した。人參養榮湯を服用してから体調が良くなっているため、本人の希望により現在も継続している。

## 症例2 82歳、女性

1年前、感冒後に肺炎を起こして当院呼吸器科に3週間入院した際、退院直前に、難聴が急速に進行したためコンサルテーションをもらった。紹介されたときは、鼓膜所見は正常で、ティンパノグラムAタイプ、滲出性中耳炎の所見はなく、聴力検査は右側62dB、左側60dBの感音難聴だった。難聴は以前よりあったが、入院してから急に進行したとのことだったが、肺炎の治療薬に内耳毒性の強い薬

図1 症例1 聴力の変化



剤はなかった。またこの症例も手足の冷えを以前から自覚しており、便通はやや便秘傾向だった。

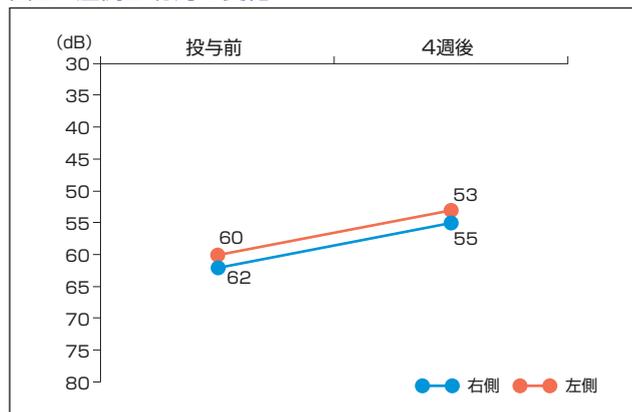
人參養榮湯エキス細粒 7.5g/日を投与したところ、4週後の再診時における聴力は右側55dB、左側53dBと改善し(図2)、会話も非常にしやすくなったとのことだった。体調も手足の冷えも改善して、歩行も速度や時間が改善した。便通も良くなり非常に具合が良いとのことで、本人の希望もあり現在も人參養榮湯は継続して服用している。肺炎もその後起きていない。また、軽度の血糖値とHbA1cの低下も認められた。

## 考 察

65歳以上の高齢難聴者は1,500万人超と推計され、また聴力を維持していたとしても60歳代の3人に一人は10年後に難聴を発症したと報告されている<sup>1)</sup>。原因は明確にはなっていないが、生活習慣病や運動不足などによる血流障害が、活性酸素とともに有毛細胞や神経細胞に障害を与えると考えられている<sup>2, 3)</sup>。加齢性難聴の問題として、単に聴力低下による支障だけでなく、うつや認知症の発症率、要介護リスク、死亡率などに関連し<sup>2)</sup>、心身全般の健康に影響を及ぼす恐れがある点が挙げられる。さらには早期介入が必要であるにもかかわらず、根本的な治療法はなく、補聴器の装着が推奨されているのが現状である。

一方、手足の冷えは加齢とともに増加し、平成28年の国民生活基礎調査における65歳以上の有訴率は人口千人当たり男性41.3人、女性65.2人と報告されている<sup>4)</sup>。原因として内分泌機能の低下や自律神経機能の低下、筋肉量が少ないことなどによる末梢循環不全が考えられる<sup>5)</sup>。また高齢者では、血管壁の硬化や基礎代謝の低下などの影響を受けるとの報告もある<sup>6)</sup>。冷えは便秘や不眠、肩こりなど心身の不調に影響を及ぼし、さらにTsuboiらの報告

図2 症例2 聴力の変化



では難聴リスクの増加との関連も示唆されている<sup>7)</sup>。しかしながら、西洋医学では重視されていないこともあり、診断基準や治療法は確立しておらず、人參養榮湯などの漢方薬が使用されることも多い。

今回、急速に聴力が低下した加齢性難聴患者の手足の冷えに人參養榮湯を投与したところ、症例1は2週後より、症例2は4週後より、冷えの自覚のほか、聴力の改善が認められた。聴力については、自覚的な改善だけでなく、4分法における両側の平均聴力レベルが2~4週で6~7dB、さらに症例1においては6ヵ月で約20dB改善した。冷えと難聴には共通して循環障害が関係しており、人參養榮湯の末梢循環改善作用<sup>8)</sup>により冷えだけでなく、難聴の回復も認められたのではないかと考える。また、2例とも歩行能力の改善が認められたことから、人參養榮湯のもつ骨格筋萎縮抑制作用<sup>9)</sup>や筋力改善作用<sup>10)</sup>を介した循環改善作用も期待できる。難聴に対しては、四物湯が抗酸化作用により有毛細胞を保護するとの報告もあり<sup>11)</sup>、同じ構成生薬を含有し、酸化ストレス抑制作用<sup>12)</sup>をもつ人參養榮湯にも同様の作用を有する可能性がある。以上のことから、急速に聴力が低下した加齢性難聴患者に対し、手足の冷えを目標に人參養榮湯を試すべき薬剤の一つと考える。今後さらに症例数を増やして検討する予定である。

## 【参考文献】

- 1) 内田育恵 ほか: 全国高齢難聴者数推計と10年後の年齢別難聴発症率—老化に関する長期縦断疫学研究 (NILS-LSA) より. 日老医誌 49: 222-227, 2012
- 2) 増田正次: 高齢者の難聴. 日老医誌 51: 1-10, 2014
- 3) 染谷慎一 ほか: 運動と加齢性難聴. 化学と教育 65: 582-583, 2017
- 4) 厚生労働省: 平成28年 国民生活基礎調査の概況. p.41, 2017
- 5) 林 久恵 ほか: いわゆる下肢のむくみ・冷え性と理学療法. 理学療法 21 (6): 830-837, 2004
- 6) 棚崎由紀子 ほか: 冷え症女性高齢者におけるオイルマッサージによる皮膚血流量・表面温の変化. 日本看護技術学会第13回学術集講演抄録集 194, 2014
- 7) Tsuboi S, et al.: Are cold extremities an issue in women's health? Epidemiological evaluation of cold extremities among Japanese women. Int J Womens Health 11: 31-39, 2019
- 8) 竹宮敏子 ほか: 人參養榮湯の末梢循環障害に対する臨床効果—指先容積脈波を加えた検討—. 薬理と治療 19: 3801-3808, 1991
- 9) Ohsawa M, et al.: Effect of Ninjin'yoeito on the Loss of Skeletal Muscle Function in Cancer-Bearing Mice. Front. Parm. doi: 10.3389/fpar. 2018. 01400, 2018
- 10) Sakisaka N, et al.: A Clinical Study of Ninjin'yoeito With Regard to Frailty. Front. Nutr., 24 Sept 2018 doi: 10.3389/fnut.2018.00073
- 11) 菅原一真 ほか: 音響障害に対する漢方製剤の内耳保護効果—ゼブラフィッシュ側線器有毛細胞を用いたスクリーニングの結果から—. Audiology Japan 58: 599-600, 2015
- 12) 尾里納美 ほか: 漢方薬による細胞内酸化ストレス抑制効果についての細胞生物学的検討. 医学と薬学 71: 1605-1612, 2014